

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100278		
法人名	株式会社北星		
事業所名	グループホームなの花すながわ		
所在地	〒073-0171 北海道砂川市空知太1条3丁目3番2号 (電話) 0125-56-2020		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	平成21年4月21日

【情報提供票より】 (平成21年1月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 3月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	15人, 非常勤 5人, 常勤換算 14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	12,000~18,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	12 名	名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	名	要支援2	0 名		
年齢	平均	80.7 歳	最低	63 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団明円医院、滝川脳神経外科病院、さとう歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、高齢化社会の情勢を踏まえ、地域への貢献をめざし、他業種から福祉事業に参入した、市内にある唯一のグループホームである。利用料を低料金で設定するなど、誰もが当たり前の生活を確保できるように取り組んでいる。また、医療連携体制を整備し、看護師が中心となって利用者の健康管理を行うとともに、看取りへの取り組みも検討している。利用者は、個々の趣味活動にいきなり、それぞれの役割を持ちながら過ごしている。さらに、運営推進会議を活かして、地域との交流を広める取り組みを進めている。現在、2ユニットの増設を計画しており、地域福祉の基幹事業所として、今後も期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査で挙げられた理念の再検討については、職員全体で話し合い、地域密着型サービスとしての理念を追加して、新たな目標をつくりあげている。また、運営推進会議を開催するとともに、重度化や終末期の方針も段階的に検討を進めるなど、改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが、ケアの振り返りや気づきの機会として自己評価に取り組む、全体で検討して作成している。外部評価の結果は、日常的な流れの中では見えにくいことへの、気づきの機会として受け止め、取り組んでいる</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所関係者を構成員として、2ヶ月ごとに開催している。今年度は、開催間もないため事業所の運営状況、利用者の生活状態、行事の報告が主となっているが、今後は意見交換を充実させて、運営に反映させるよう努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に、意見や希望を言い出しやすい雰囲気づくりに心がけており、相談等の内容も、運営に反映させるよう努めている。また、苦情窓口についても家族等に説明し、玄関内にも掲示している。今後はさらに、家族に提供する資料の中にも、外部の苦情窓口を提示することが期待される。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民が事業所を訪れ、利用者とは話を楽しんだり、事業所の行事に参加したり、事業所周りの草取り等を行っている。また、事業所も、地域の清掃活動を行うなど、日常的に地域と交流を図るよう取り組んでいる。さらに、看護学生や認知症介護実践者研修の実習も受け入れるなど、事業所の役割として取り組んでいる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営理念を基本として、職員全体で検討し、「地域との交流を深め、なじみの関係を大切にする」という、新たな理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、毎朝の申し送りやカンファレンス時に全体で復唱し、共有を図っており、ケアの原点に立ち返る機会として活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民が事業所を訪問し、利用者とお茶を楽しんだり、野菜や花の差し入れ、庭の草取り等をしている。また、施設長が町内会の集會に参加して、事業所への理解を図るとともに、職員等も利用者と共に町内の清掃に参加している。さらに、七夕やひな祭り等の事業所の行事には、地域住民へ参加を呼びかけるなど、交流を図っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが、ケアの振り返りの機会として自己評価に取り組み、全体で検討している。また、外部評価について、職員は第三者の目線の重要性を認識しており、評価結果を職員全体で検討し、できるところから段階的に改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所関係者等で、2ヶ月ごとに会議を開催している。会議では、事業所の状況、利用者の状態、行事報告等を行っている。	○	今後は、家族及び地域の代表である運営推進委員に、意見表出の活発化を働きかけ、要望や意見を運営に反映させるなど、地域との交流をサービスに活かすことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所は、市内にある唯一のグループホームであり、市の担当者及びケースワーカーと、日常的に報告や相談等を行うなど、連携を図っている。また、砂川市立病院付属看護学校の実習生や実践者研修の実習を、継続的に受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回、写真入りで事業所新聞を発行し、利用者の暮らしぶり、行事案内、職員の異動等について報告している。また、利用者一人ひとりの状況については、家族の訪問時や、状況の変化によっては電話で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見や苦情の相談窓口を提示している。また、家族の訪問時に意見や希望を聴くよう努めているが、意見や苦情は少ない。	○	今後は、家族が外部にも意見を表せるよう、重要事項説明書等に、外部の相談機関の窓口を提示することが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回、一人ずつユニット間で職員が異動しているが、利用者が日常的にユニット間を行き来し、職員ともなじみの関係ができており、混乱は少ない。また、利用者の状況を把握しながら、ダメージを回避するよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	空知管内の認知症に関する研修や、市の呼びかけによる福祉関係の職員同士の研修及び交流による情報交換等にも参加している。外部研修には、今年度から計画に基づき、職員が順番に参加するよう取り組んでいる。内部研修として、他事業所の管理者が講師となり勉強会を行うなど、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空知管内の研修会等で交流を図るとともに、他事業所と情報交換や交流を行っている。また、月に一度、他事業所の職員を講師に招き勉強会を開催するなど、共にケアの質を高めるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、本人と家族に事業所の事前見学を勧めるとともに、複数回の面談を通して、本人の希望や不安を聴き、安心して利用を開始できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴から学ぶことが多く、風習や季節行事の知恵等を、ケアの参考としている。また、家庭菜園でも、作物の収穫時期を教わることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通して、利用者一人ひとりの会話や表情から想いを把握し、その都度記録しながら職員全体で共有を図っており、利用者本位の支援に努めている。また、意思疎通が困難なときは、家族や関係者から情報を得て思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員一人ひとりが記録した利用者の情報と家族の意見を基に、利用者、家族の希望に沿った個別の具体的な計画を作成している。また、毎月のカンファレンスにおいても介護計画を確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとにサービス内容について検討し、介護計画の評価を行っている。状況に変化が生じたときは、随時見直しを図り、計画の変更、追加をしている。また、家族へも報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備するとともに、本人、家族の状況や希望に応じて、柔軟に対応している。通院、ドライブ、買い物、散歩支援など、利用者一人ひとりの満足を得るよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じたかかりつけ医の受診を支援している。また、検査や医師から説明がある時は、事業所の看護師も同行するなど、連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族や医療機関と話し合いを行い対応している。しかし、重度化や終末期に向けた指針、同意書を作成するまでには至っていない。	○	今後は、終末期、看取りに関する対応指針、同意書等を作成し、本人、家族、医師、看護師、職員等のチーム全体で、方針を段階的に共有する体制の構築が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりのプライドに配慮し、優しい言葉かけに努めている。また、個人記録は、表から見えにくい所定の場所に置き、個人情報の重要な書類は、事務室の書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に、その日の思いを汲み取りながら支援している。また、利用者は、ペットボトルで風車を作ったり、編み物をしたり、歌を歌うなど、自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立を、職員と利用者が共に考え、調理している。また、料理の盛り付けや配膳など、利用者はそれぞれの力に応じて食事の準備に携わり、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、利用者の体調に合わせて週2回以上の入浴を支援している。日中の入浴は、職員のローテーションを工夫し、利用者の希望に沿うよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの持てる力を見極めながら、出番を支援している。食事づくりや清掃、工作、編み物等、利用者の趣味や経験、知恵を活かす場面を設けるなど、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物、ドライブ、畑の水やりなど、一人ひとりの希望に沿った支援をしている。また、歩行困難な場合でも、車や車椅子を利用して、積極的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけておらず、利用者が自由に外出できるようになっている。夜間は、安全確保のため施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行っている。また、地域への協力の呼びかけをしている。しかし、協力体制を得ることを、相互に確認するまでには至っていない。	○	今後は、地域住民との協力体制をマニュアル化するとともに、夜間も想定して、地域住民参加の下、避難訓練等に取り組むことを期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量を細かく記録し、適量を確保している。また、献立は、利用者の希望を採り入れながら考えている。しかし、栄養バランスやカロリーなどを定期的に確認するまでには至っていない。	○	今後は、利用者の身体的機能の低下を踏まえ、栄養士等の専門職から、栄養バランスや必要カロリーについて、定期的にアドバイスが得られるよう取り組むことを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務室を中心に、左右に各ユニットを配置している。また、対面式の台所と明るい食堂に繋がって居間を設けており、利用者が思い思いの場所で過ごせる空間となっている。さらに、利用者の手作り作品や写真を掲示しており、落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者がそれぞれ使い慣れた家具、調度品を置いている。また、テレビや冷蔵庫を備えている利用者もあり、自分の部屋として過ごせるよう支援している。さらに、家族写真や工具等も置いて、自由に趣味活動をしながら楽しく過ごしている。		

※  は、重点項目。